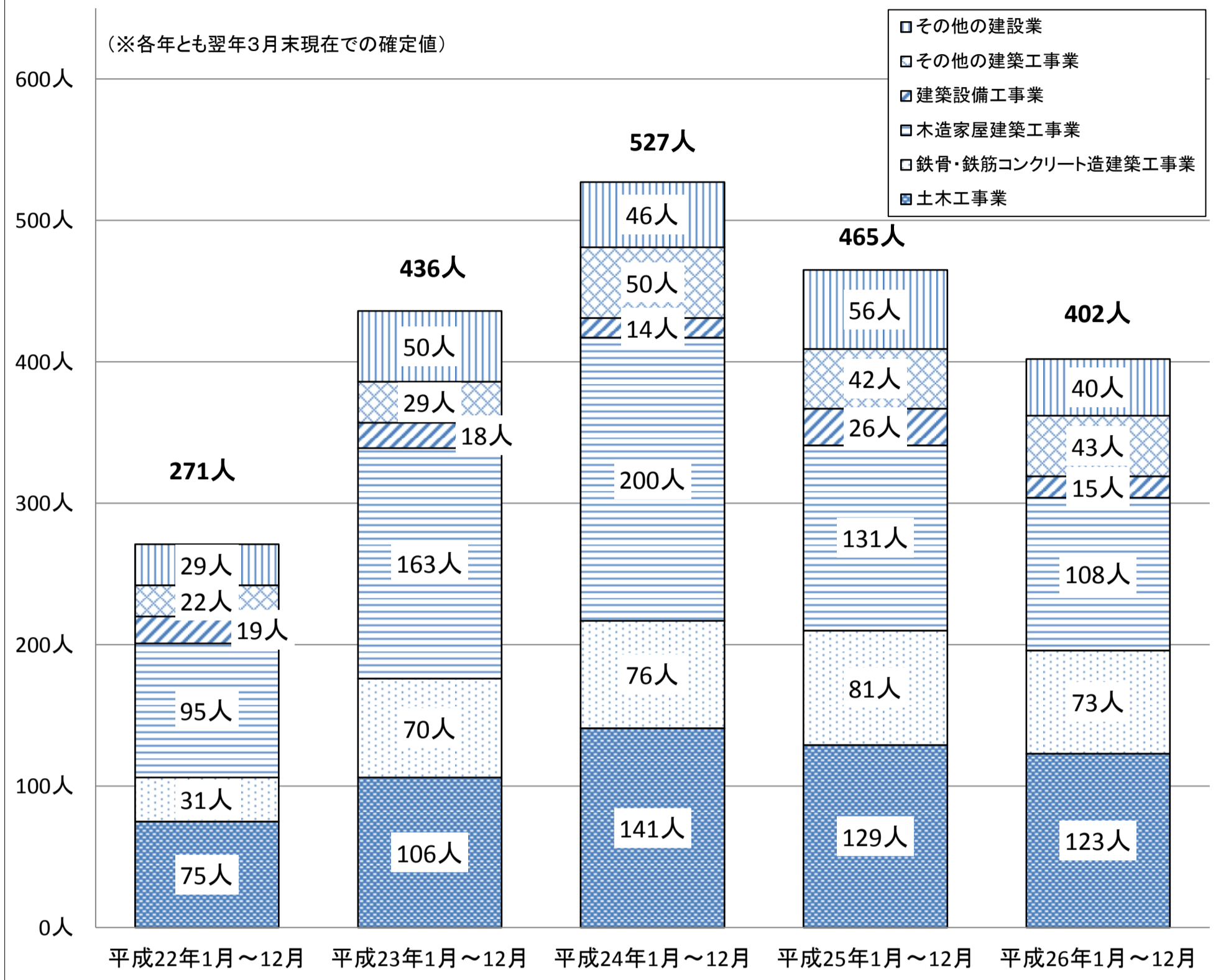


建設業の労働災害発生状況(平成22年～平成26年)(確定値)

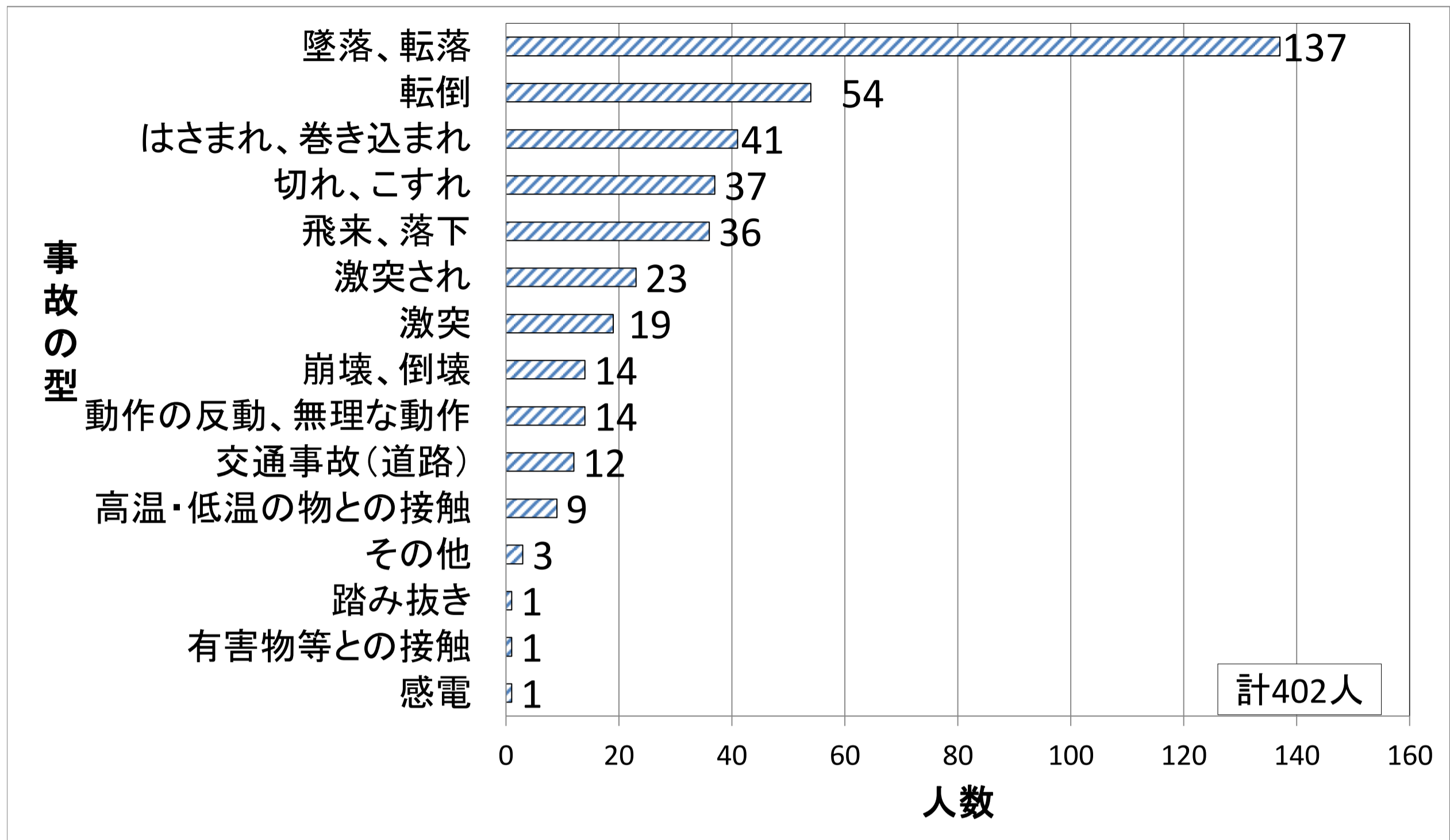


- ①平成26年(確定値)の建設業の労働災害は402件と対平成25年比63件、13.5%の減少、対平成24年比125件、23.7%の減少、対平成23年比34件、7.8%の減少となっていますが、対平成22年比は131件、48.3%の増加と震災前の水準を上回っています。
- ②平成26年(確定値)の建設業の月ごとの発生状況は、1月36人、2月41人、3月36人、4月36人、5月32人、6月22人、7月37人、8月29人、9月30人、10月34人、11月30人、12月39人です。
- ③平成26年(確定値)は、対平成25年比で、その他の建築工事業を除く各業種で前年の件数を下回っています。
- ④平成26年(確定値)の建設業の労働災害402件のうち、事故の型別で最も多いのが墜落、転落で137件、34.1%、次いで転倒54件、13.4%、はさまれ、巻き込まれ41件、10.2%の順となっています。また、被災労働者の年齢では、最も多いのが60歳以上70歳未満91件、22%、次いで30歳以上40歳未満87件、22%、50歳以上60歳未満79件、20%の順となっています。
- ⑤平成26年の死亡災害は、土木工事業で4件(立坑内に墜落したもの、トラック荷台上に積んだコンクリートカッターにはさまれたもの、河川内でドラグショベルが横転し水没したもの、軽トラックが凍結によりスリップしたもの)、木造家屋建築工事業で1件(足場から墜落したもの)、建築設備工事業で1件(過労による脳出血)その他の建築工事業で1件(通路で転倒したもの)が発生しています。

建設業の労働災害の発生状況(26年1月～12月)

1. 災害の原因別

平成27年3月末現在(確定値)



建設業の労働災害の発生状況(26年1月～12月)

2. 年齢別

平成27年3月末現在(確定値)

